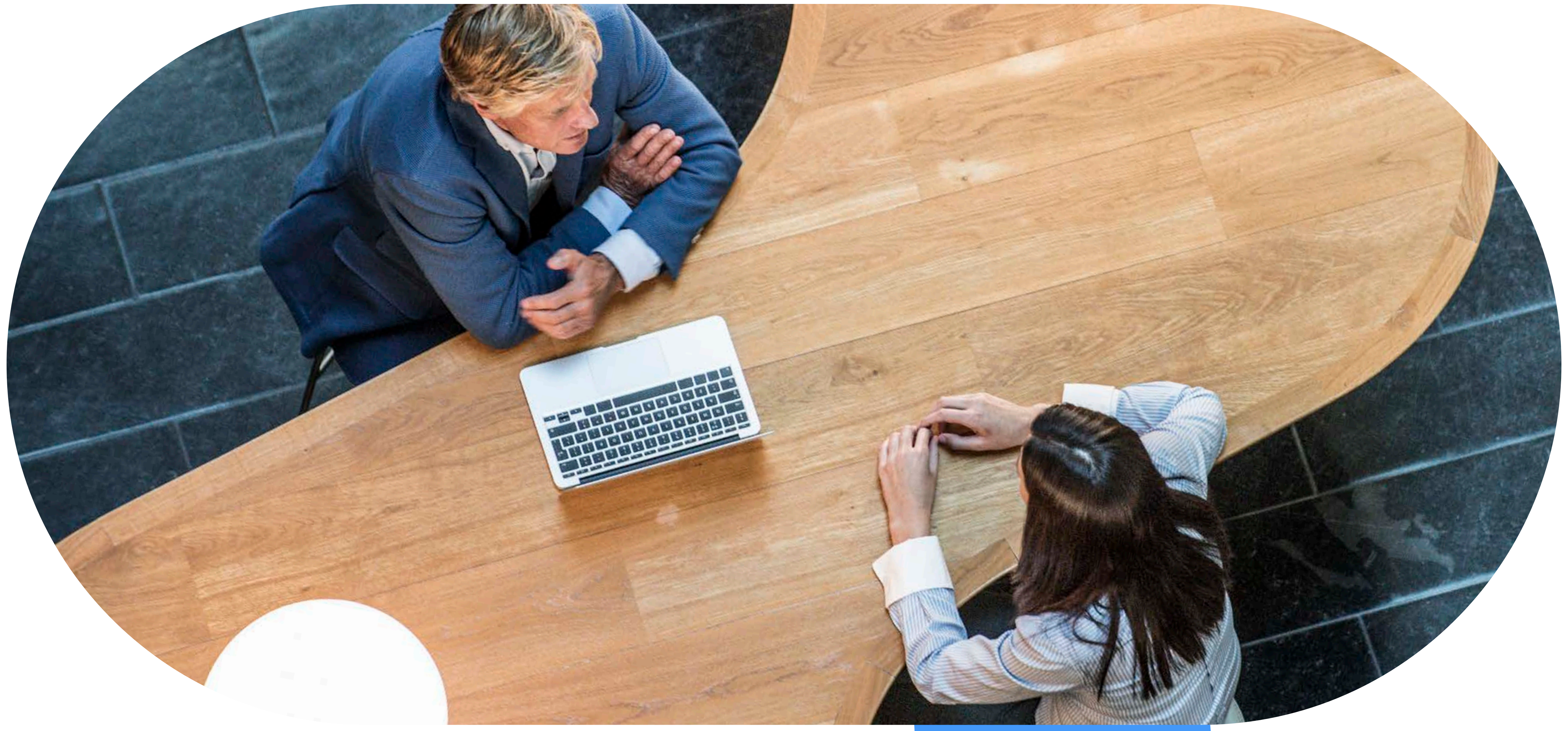
AIスターターキット：
5つの戦略的ステップ

5つの戦略的ステップ
人工知能を始める

- **ステップ1：**ビジネスケースの作成から開始する
- **ステップ2：**人工知能に実行させることを正確に特定する
- **ステップ3：**人材戦略を更新する
- **ステップ4：**データハウスを整理する
- **ステップ5：**今すぐ人工知能の階層を始めてみましょう！

中小企業がAIの未来に備えるべき5つの方法

中小企業（SMB）として、今後登場するAI機能を十分に活用できる準備が整っているか不安に感じていませんか？そう感じているのはあなただけではありません。あらゆる規模、業界のビジネスリーダーやITリーダーは、AI機能の急速な進歩に準備が間に合っていないと感じています。



何から始めたらいいのか迷っていませんか？AI戦略を成功に導く道は、データとアナリティクスへのアプローチから始まります。まずは小規模な取り組みから始めることで、既存の強みを生かしながらAIツールを試し、現有の能力を鍛えながら新しい能力を育成していくことができます。AI導入の取り組みには、信頼できるパートナー、つまり、貴社のビジネス、強み、データアナリティクスの成熟度の現状を理解しているパートナーが欠かせません。

適切なパートナーと組むことで、組織の能力を新しいテクノロジーに結び付ける実践的な方法を方法をみつけ、AI導入の取り組みを加速させることができます。また、新規あるいは既存のアルゴリズムやプロセスを洗練させ、AI技術の波を活用するための体制を整える手助けもしてくれます。

SASは、中小企業に関する豊富な実践経験を活かして、お客様が将来に向けて準備できるよう支援しています。本ガイドは、AI導入成功の基盤を築くために、今日から実行できる賢明かつ戦略的な動きを見極めることができるよう作成されたものです。

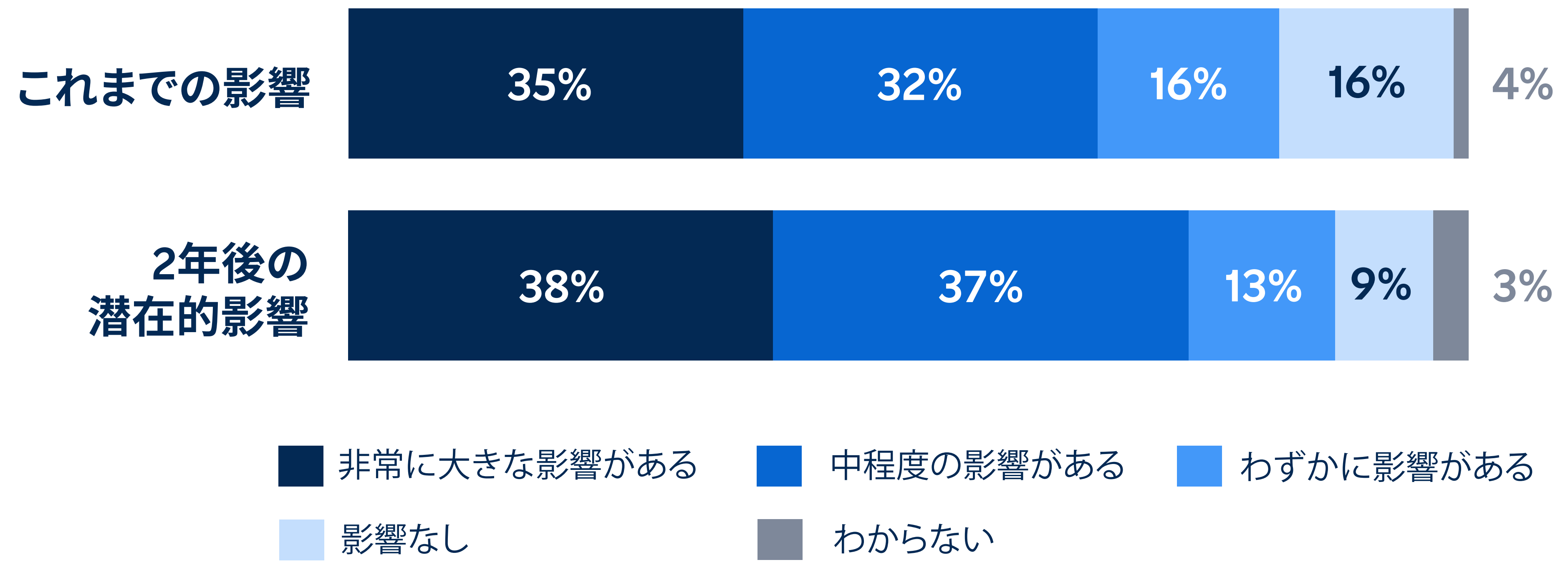
ステップ 1
今すぐAIビジネスケースを作りましょう

リーダー層の方々は皆、どこにどのように配置するかまでは明確でなくても、つねにAIについて考えていることでしょう。また、その将来性と可能性を理解したうえで、ビジネス　バリューの向上にも重点を置いているはずです。

SMB Groupによると、中小企業の3分の2は、AIがこれまでに自社のビジネスに非常に大きな影響または中程度の影響を与えていると報告しており、75%以上が今後2年間で同様のレベルの影響を期待しています[1]。**AI主導の自動化が最初の目標であり、手作業の削減、大規模なデータセットの分析による意思決定のパターンの検出、エンドユーザーエクスペリエンスの向上を目指しています。**

AIビジネスケースは、単なる科学的実験ではなく、ビジネス成果を促進する方法を明確にする必要があります。なずは焦点を絞って優先順位を付け、ビジネスに最も高いバリューをもたらすケースを特定しましょう。何もしないことのリスクや、新規参入者や競合他社によるビジネスの混乱の可能性についても説明してみてください。それ以上に重要なのは、AIがどのようにビジネス変革の原動力となるかについて、アイデアやユースケースを文書化することです。自動化を次のレベルへと進化させ、柔軟性、スピード、規模、パーソナライゼーションを向上させましょう。SASは、AI特有の課題と機会に対応するために設計された、実践的で詳細なロードマップとなる AIビジネスケースガイド を作成しました。

中小企業における人工知能の事業への影響 - 調査結果



出典:中小企業のグループ

ステップ 2
AIに実現してほしいことを明確にする

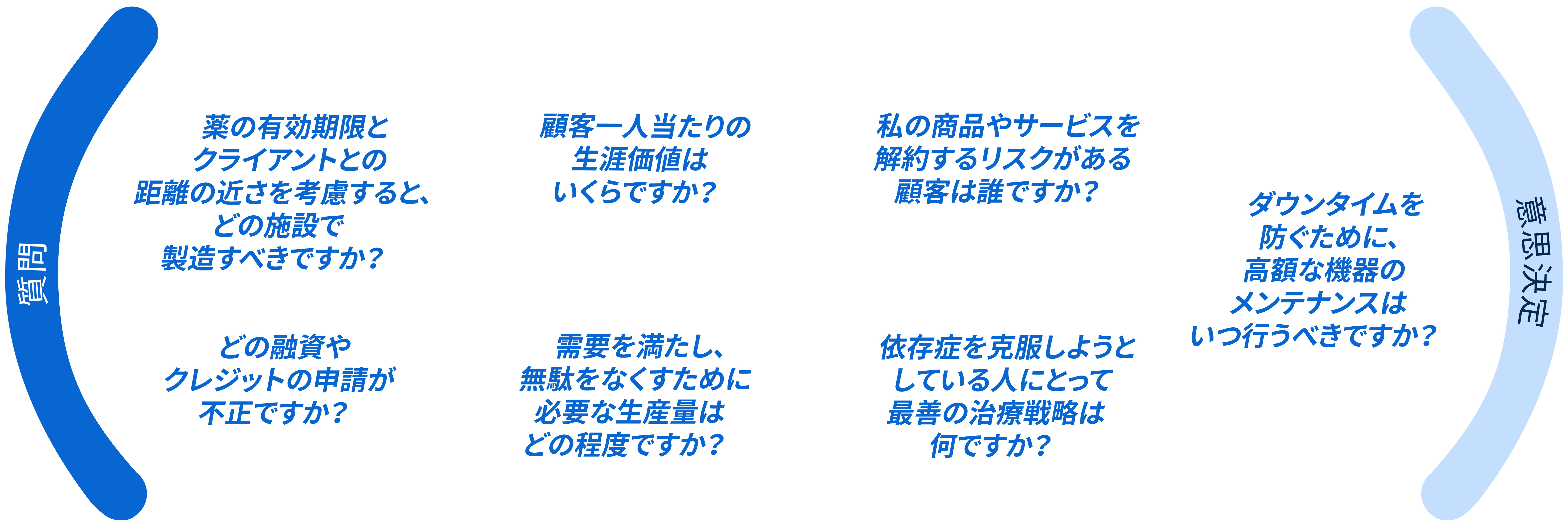
多くの経営幹部はチームに対して、日々のビジネス上の意思決定に最も大きな影響を与え、最終的にはさらに多くの質問を生み出す**「北極星」となる質問の解決に集中するよう促しています。** SASの顧客である花とギフトのオンライン小売業者「1-800ーフラワーズ・ドットコム」は、自社の「北極星指標」を顧客頻度、つまり顧客が年間に同社から購入する回数と定義しています。同社のリーダーは、初回の顧客獲得にかかるコストがリピート購入にかかるコストをはるかに上回ることを理解しているため、組織全体に波及するリピートビジネスに強い注力をしています。顧客頻度は同社が追跡する指標のひとつにすぎませんが、最も重要な指標であり、経営陣が行うほぼすべてのビジネス上の意思決定に影響を与えています。

AIで何を達成しようとしているのかを明確にすることから始めましょう。ビジネスに大きな影響を与えるために解決しなければならないビジネス上の問題は何ですか？これらの目標に対する成功を測定するにはどのようなツールが必要ですか？たとえ小さくても成功を祝うことは重要であるため、主要な関係者に進捗状況を伝えるためにどのようなことを計画していますか？

中小企業は成功の可能性を高めるために、小規模から始めて、少しずつAI機能と生産能力を拡大しています。

中小企業ではAIを使用してアナリティクスタスクを合理化および自動化し、情報に迅速にアクセスして、十分な情報に基づいたデータ主導の意思決定を行っています。

MIT SMRコネクションズと共同で開発したガイド、SASの「問題を特定する：AIに適した問題はどれか？」は、AIで最も対応しやすい現在の課題を絞り込むうえで役立ちます。



ステップ 3
人材戦略をアップデートする

これまで優秀な人材を採用し、維持し、育成するために懸命に努力してきたことでしょう。しかし現時点では、従業員がAIを受け入れる準備ができていないかもしれません。今こそ、人材戦略をアップデートし、チェンジ・マネジメントイニシアチブを実行すべきときです。

AIの導入をリードするための準備に適任な、好奇心旺盛で有能かつ現実に即したチームメンバーの一覧表を作成しましょう。それを元に、追加のサポート、トレーニング、コーチングの提供など、AI指向のチェンジ・マネジメント戦術を組み立てていきます。現在、チームに所属するメンバーの多くは、AIで成功するために必要な基本的なスキルをすでに備えています。これらのスキルを技術的および分析的な能力に焦点を当てたトレーニングと共にこれらのスキルを積極的に強化することで、組織のAI能力を迅速に強化することができます。

自社の能力の理想と現実のギャップを正直に見つめてみましょう。AI戦略が最高のスタートを切り、高いレベルでの成果を継続できるよう支援する、短期または長期の両方の条件のプロジェクトに参画できるパートナーの数が増えています。ソフトウェア再販業者など、純粋にトランザクションだけを行う業者もあります。また、**スタッフの増強、データ管理やアナリティクス、ホスティングなど、より詳細な機能を提供する業者もあります。もちろんSASもこれらのサービスの多くを提供しています。**

ステップ 4
データハウスを整理しましょう

データの準備は、おそらくAI戦略の中で最も重要でありながら、最も魅力に乏しく、最も見落とされがちな要素です。従来のアナリティクスと同様、AIの成功はデータに依存します。多くの中小企業では、データが不適切に扱われたり、必要に応じて管理対象になったりすることがよく起こります。データはたくさんあっても、ビジネス上の意思決定のために使用される情報は限られたものだけなのです。自社でも似たような状況が起きていると思った方は、今こそAI機能への移行を容易にするデータ戦略を推進するときです。まず、データの2つの側面、つまりアクセスと品質に焦点を当てましょう。

自信を持ってデータを活用するには、完璧なデータである必要はなく、むしろ意味のあるデータでなければなりません。データは絶えず蓄積されるため、最適な保存方法やアクセス方法を決定するのは難しいかもしれません。データパイプラインやデータ戦略サービスを提供するパートナーは、データがAIの使用基準を満たしていることを確認し、必要なときに適切な出力形式で利用できるよう支援してくれるでしょう。

SASのサポートを受けながら TDWI（分析研究教育組織）が作成した記事 は、特に中小企業が直面している根本的なデータ課題に関する詳細な実践ガイドであり、それらの課題を効果的に解決する方法も述べられています。

ステップ 5
今すぐAIを試してみましょう

AIテクノロジーが急速に進歩し変化していることを考えると、どこから始めればよいかを判断するために、AIテクノロジーの能力（およびその限界）を常に把握する必要があります。最初からAIに「全力で」取り組む必要はありません。成功するためには、小さく始めて、より分析的に成熟したビジネスに育てていくことです。

たとえば、多くの中小企業は意思決定を行う際、スプレッドシートに大きく依存しています。あるSASの顧客は、勝敗レポートを作成するのに3.5日、34ステップのプロセスを要していました。そこでこの企業は、インタラクティブなWebベースのダッシュボードを備えた「常時接続型のセルフサービスポータル」を導入しました。**ビジネスへの影響としては、インサイトを元に製品の方向性が決まり、販売員が最適化され、新しいキャンペーンを開始しました。**SASのケーススタディ では、右に示すように、2段階プロジェクトの詳細が説明されています。

既存のデータとアナリティクステクノロジーを精査することは、AIへの準備状況を評価する優れた方法です。貴社において、AI戦略を強化できるような強みはどこにありますか?AIを使えるようにするために必要な作業の大部分は、データの収集、準備、分析、可視化の作成、データ内の関係性、傾向、外れ値の理解など、データに重点が置かれることを考えてみましょう。どれもすべて、今日から組織のAI準備状況を評価できる領域です。

SASケーススタディ：勝敗分析レポート

34段階 - 3.5日 四半期ごと
前

- 挿入、コピー、7回のVlookup
- 21のピボットテーブル - 32のグラフ
- データをコピーしてグラフを作成する

クエリ、エクスポート、Vlookup、
手動での操作

13ステップ - 0.5日 月次
後 – フェーズ1

- 挿入、コピー、7回のVlookup
- SASにデータをアップロードする
- リアルタイムかつ双方向型なWebベースのダッシュボード

廃止されたピボットテーブル
グラフとレポート

常時稼働&双方向型
後 - フェーズ2

- データソースのワンタイムセットアップ
- 21の双方向型セルフサービス・ダッシュボード
- リアルタイムかつ双方向型なWebベースのセルフサービスポータル

私たちにお任せください！

あらゆる成功への道は適切な準備から始まりますが、AIも例外ではありません。クラウドコンピューティングやインターネットの出現と同様に、AIはすでに現実のものとなっており、その影響は極めて大きなものとなるでしょう。今日から準備することで、中小企業は自社の条件に即したAI導入の道を歩む最高の機会が得られます。それにより、最終的には途中で失敗するリスクを軽減できます。

AIによる成功への道を示してくれる信頼できるパートナーをお探しであれば、SASがお役に立てるでしょう。当社はAIのパイオニアであり、中小企業市場に数十年にわたって注力してきた経験から、中小企業の独自の要求に最適なソリューションと機能の提供方法のノウハウがあります。中小企業向けに特別に開発された機能とインサイトについて詳しく知るには、デモをリクエストして会話を始めてみてください。

こちらをご覧ください www.sas.com/smb

[1]2024年、中小企業の優先事項、ビジネス要件に合わせたテクノロジー投資、SMB Group

SASおよびその他すべてのSAS Institute Inc.の製品名またはサービス名は、米国およびその他の国におけるSAS Institute Inc.の登録商標または商標です。®はUSA登録を示します。その他のブランド名および製品名は、各社の商標です。著作権 © 2024, SAS Institute Inc.All rights reserved.0424